

〈特別寄稿2〉

落語についての講演

中川晶
京都看護大学

Lecture on the art of Rakugo performance

Akira Nakagawa
Kyoto College of Nursing

前回に能という古典芸能が披露され、多くの反響があったので、今回も同じく古典芸能を取り入れてみようということになり落語に焦点を当ててみることになった。様々な意見が交わされ、やはり本職の落語家から話を聴きたいという結論で、桂文我師匠にお願いすることになった。文我師匠は関西では知らぬ者がいない故・桂枝雀師匠の最後の弟子であり、枝雀師匠の芸風を継いでおられる落語家。

文我師匠は寄席ばかりではなく、相愛大学でも落語をもとに講義しておられ、博識で研究熱心な方である。

今回は落語そのものではなく「落語についての面白話」という内容で落語の歴史から始まり、落語の

もつおかしさを小噺を挟みながら説明頂き、楽しいひと時を過ごすことが出来た。

特に今回は医療に絡むと落語をいくつも紹介頂いたが、落語のなかには病気や医療を扱うものがかなり多く、聴いていて笑いころげながらも耳の痛くなる話も多かった。落語の中で医師はエラそうな態度で登場することが多いが患者はそれが虚勢であることを最初から見抜いていて医師が揶揄われる話が多い。日本人は昔から根本では医療パートナーリズムが空虚なものだと見抜いていたのかもしれない。